タイトル：2024 年度 教育セミナー（第 20 回）
日時：2024 年 9 月 19 日（木）～22 日（日）
場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階 大会議室（303）

佐野 元昭-昭代（東京大学大学院）

4 日間のセミナーに参加させて頂き、ありがとうございました。以下感想です。

まず、中東・イスラーム研究に関する様々な分野の発表を聞く機会を得られた意義は大きかった。私自身、学会に参加すると主に正教（正教と共存するイスラーム）の話題を聞くことが多かった。この状況で、中央アジアの権威主義のような比較的専門に近い分野の発表のみならず、アンダルスから歴史的シリアに至るアラブ圏の歴史や、アナトリアでもトルコの現代政治など、地域・言語や方法論を異にする中東・イスラーム研究の発表を聞く機会を得て、参加することで初めて見えて来る世界があった。

上記に関連して、「地域・言語や方法論」そのものの問題にも触れることが出来た。このような方法論の差異は俗に「ディシプリン」の差異と呼ばれる。「ディシプリン」が異なると議論も易からずと感じることもあった。他方、「ディシプリン」に収め辛い研究分野があることもまた事実である。その研究を進めていく上での対象の選択過程の問題、オーラル・ヒストリーのインフォーマントとの合意、日本政府の地域研究への支援の弱さに至るまで、方法論そのものを実践する上で、知らずにはいられない様々な問題を言語化して頂いた。

次いで、ポスター発表の経験である。正直なところ、9 月中に執筆の予定と他の研究会発表の予定があった私は、9 月に執筆と並行して研究会発表を 2 回も行うのは負担が重い、でも私の研究を聞いてコメントを受け取る機会は欲しい…という多分に身勝手で矛盾した願望により、一種の妥協のようにポスター発表を申し込んだことを否定出来ない（モチベーションが低くて申し訳ありません…）。

私にポスター発表の経験はなく、今後他でする予定も一切ない状況で、いきなり無からポスターを作成するのは困難を極めた。況して、私の研究は全面的に文字史料に依拠し、図像史料も統計もGISも一切使っていないから尚更である。何とか表を入れて、文字だらけのポスターを提出し、当日、何とか可もなく不可もない（？）下手なポスター発表をし、聴衆より一定の論点を指摘して頂いた上で、その後考古学分野でのポスターの作例を見せて頂いたのであった。ここでポスター発表をしなかったら今後何年何十年とポスター発表をしていない可能性もあり、下手であったとしてもポスター発表の世界に初めて足を一歩踏み入れた、ただその一歩だけでも大きな収穫になったと回顧する。

地域・言語や方法論の差異、地域・言語や方法論そのものが内包する問題、未経験の発表の方法など、中東・イスラーム地域研究の知識や立論のみならず、研究方法論のメタ的な問題や行為そのものの問題にも触れることが出来た点で、有意義なセミナーでした。所員の先生方、また事務局の千葉様、この機会を与えて下さり有難うございました。